

父を偲んで

『日野原重明先生のご講演の一部を引用して』

玉木 長良

父、玉木正男が昨年6月に他界しました。大阪で生まれ、関西で育ち、大学卒業後に東京に移り、その後岐阜、長崎と転々とし、最後は大阪に戻ってきました。また定年の前後には広島でも仕事をさせていただきました。この91年の間にさまざまな方々にめぐりあうことができ、本当に豊かな生涯をすごすことができました。生前に父が賜りましたご厚情に心より御礼申し上げます。

特に林文子先生はじめ、多くのお弟子さんに囲まれて幸せな研究生活ができたこと、何より感謝します。林文子先生が作られた「健康文化振興財団」ともご縁があり、この「健康文化」に何度か寄稿させていただきました、また父の書斎にはいつもこの雑誌が大切に整理保存されていました。

私ごとで恐縮ですが、3年前の平成15年、私の所属します北海道大学医学部核医学教室の創立20周年を迎えました。その記念講演会に父の友人であり、「生き方上手」などのベストセラーの本を次々に出版されておられ、平成17年には文化勲章を受賞された日野原重明先生に来ていただき、講演をお願いしました。その講演は実に100分を越えるものでしたが、最初の所で父の紹介をしていただきました。その部分をテープに起しましたので、ここに紹介させていただきます。

『私は第三高等学校に昭和7年に入りました。神戸の関西学院という受験校でない学校からこの高等学校受けたんで、受験勉強らしいものはしなかったんですが、三校に入ってみますと各地の秀才が集まっているということで。玉木先生のお父さんは、京都の一中という名門の（ご出身で）。多数が神戸一中と京都一中からはたくさん三校に入るわけではありますが、私たちの学校からは何年かに一人入るくらいではありますが。そういう秀才がですね、集まってきた高等学校でありましたが、数学と物理となりますと玉木君がやっぱりトップで。このやっぱり若い数学の教師が京大の数学を出て、そしていろいろ数学の方程式を

解くんですが、玉木君が非常にシャープな数学的な知識でもって解かれるんで、私は非常に素晴らしいと思い、また先生方はそういう風な学生を持つ事を誇りとしてたんですが。

数学や物理が非常に良いんですから、物理かあるいはそういう風なところに行かれると私は思っていたところが、医学部を志願し、そして医学部を卒業して私は結核のため1年遅れましたが、私より1年先に卒業して。たいていは母校に残るんですが「東京に出る」と。それはやはり物理が得意でありましたから、放射線学をどこか母校以外のところで、ということで慶応にいられて。そして慶応で勉強して慶応の助教授になられた後、岐阜医科大学、さらに長崎、そして大阪市立医科大学の放射線学の教授を歴任されて、そして岐阜におられる頃は心臓病学に関連のある、放射線学を開発されたということで、非常に素晴らしい業績を作られたわけでございます。

私は玉木君のような素晴らしい友達を持ったことを非常に、私は今日まで喜んでおりますが、その後お会いする機会が無く今日のご令息に会って、ご令息の奥さんに空港まで来てもらって、京都の昔の話をしたわけでございます。』

この講演の終了後、日野原先生より「ぜひお父さんを東京まで連れてきなさい」、と盛んにお誘いを受けました。残念ながら当時はずでに足腰が弱っており、かなえることができませんでした。でも父はこのテープ起こしの文章を読んで、懐かしそうに、日野原先生たちと過ごした学生時代のことを何度も語ってくれました。

(北海道大学大学院医学研究科・病態情報学講座・核医学分野教授)